

[成果情報名] 底びき網漁具改良によるホッコクアカエビ漁のゲンゲ類排出技術

[要 約] 底びき網漁船の活エビ出荷技術開発の課題となるゲンゲ類の混獲は、漁具の胴尻網に排出口を設ける漁具改良により約3割軽減できる。

[部 署] 山形県水産研究所・海洋資源調査部

[連絡先] TEL 0235-33-3150

[成果区分] 指

[キーワード] ホッコクアカエビ、ゲンゲ類、底びき網漁業、排出口

[背景・ねらい]

ホッコクアカエビ（以下、紅エビ）は本県底びき網漁業の水揚金額の約15%を占める重要な漁獲対象魚種であるが、漁獲量は減少傾向にある。一部の漁業者は活エビ出荷に活路を見出そうとしているが、一緒に入網するゲンゲ類による紅エビの活力低下が課題と考えられている。そこで、ゲンゲ類を排出できるよう底びき網漁具を改良し、試験操業によりその効果を検証した。

[成果の内容・特徴]

1. 試験操業は2020年3月25日、4月30日、5月1日に漁業試験調査船最上丸により実施した。それぞれの操業回数は3月に1回、4月に2回、5月に3回の計6回であり、うち4、5月の1回ずつは事故網となったため、それらを除く4回分の操業データにより結果を考察した。曳網速度は0.5ノット、曳網時間は3、4月は2時間、5月は1時間とした。
2. 底びき網漁具にはゲンゲ類の排出口として、胴尻網の上部に3寸目(9cm)の網地を1.5m取り付ける改良を施した(図1)。試験操業時には排出口の外側にカバーネットを取り付け、紅エビとゲンゲ類について、入網した量(保持量)と排出された量(排出量)をそれぞれ記録した。
3. ゲンゲ類の保持率(保持量/総入網量)は0.72、紅エビの保持率は0.91となった(図2)。これらの結果から、漁具改良を施すことにより紅エビを9割保持したうえで、ゲンゲ類を3割近く排出できることが示唆された。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果における改良漁具は容易に自作できるため、漁業者への普及もしやすいと考えられる。一方で排出能力のさらなる向上を図るには、排出口の取付位置やサイズ、目合の大きさについて検討を重ねるとともに、曳網速度等の操業条件も考慮する必要がある。